

目 次

読者へ	香西泰	xi
序 マクロ経済と産業構造	深尾京司	xiii
1 1980年代以降のGDPギャップと潜在成長率について	酒巻哲朗	3
1 GDPギャップ・潜在GDPの概念と推計方法		5
2 生産関数アプローチによる潜在GDP・GDPギャップの推計		11
3 潜在GDP・GDPギャップの推計上の問題点		20
4 今後の課題		26
付注 生産関数アプローチによる潜在GDP・GDPギャップの推計方法		27
参考文献		31
2 日本経済における消費と貯蓄——1980年代以降の概観	祝迫得夫・岡田恵子	33
1 はじめに		35
2 1980年代以降の家計消費の動向——概観		36
3 マクロの消費と資産価格——時系列モデルによる分析		38
4 「失われた10年」における家計の所得と消費／貯蓄		46
5 まとめ		56
参考文献		57

3	バブルからデフレ期にかけての家計の予備的貯蓄行動の変化	石井達也	59
1	はじめに		61
2	先行研究		64
3	分析手法		68
4	分析結果		77
5	結論		83
	参考文献		85
4	設備投資分析の潮流と日本経済——過剰投資か過小投資か	宮川努・田中賢治	87
1	日本経済における設備投資の重要性		89
2	設備投資行動の実証分析と日本経済		94
3	設備投資は連動しているか		104
4	インベストメント・スパイクの決定要因		106
5	今後の設備投資分析の課題		118
	補論 推計用データの作成方法		120
	参考文献		124
5	わが国のバブル期以降の経済見通し・景気判断と経済政策	北坂真一	129
	——その経緯と現時点からの評価		
1	はじめに		131
2	バブル期以降の主なマクロ経済変数の動き		132
3	政府の経済見通しと実績		138
4	政府の景気判断と政策対応		144
5	政府の経済計画・中期見通し		149
6	まとめ		152

付表	154
参考文献	176
6 アジアの発展と日本経済——外需動向・為替レートと日本の国際競争力	堀雅博 177
1 はじめに	179
2 バブル・デフレ期における国際経済環境（概観）	180
3 マクロ輸出入関数に基づく外需分析	189
4 貿易データを用いた比較優位構造の分析	194
5 結論——まとめと含意	205
参考文献	208
7 労働供給，労働需要，技術進歩と経済成長	櫻井宏二郎 209
1 はじめに	211
2 労働需要と経済成長	212
3 労働供給と労働需要	235
4 技術進歩等と労働需要	239
5 結び	245
参考文献	247
8 日本企業の研究開発資産の蓄積とパフォーマンスに関する実証分析	元橋一之 251
1 はじめに	253
2 R&D 資本の蓄積とその効率性を巡る議論	255
3 研究開発投資の決定要因に関する分析	266
4 研究開発資産の企業パフォーマンスに対する影響	277
5 結論	283
参考文献	286

9	サービス産業の生産性	中島隆信	289
1	はじめに——生産性論争の前に……………		291
2	デフレ期における小売サービス生産性の変化……………		296
3	消費者満足とサービス価格……………		306
4	おわりに……………		318
	参考文献……………		320
10	生産性・資源配分と日本の成長	深尾京司・金榮慤	323
1	はじめに……………		325
2	サプライサイドから見た日本の経済成長——他の先進諸国との 比較……………		326
3	産業間の資源配分と生産性……………		338
4	企業・事業所間の資源配分と生産性動学……………		343
5	おわりに……………		352
	参考文献……………		355
11	生産性変動と1990年代以降の日本経済	塩路悦朗	359
1	はじめに……………		361
2	生産要素稼働率と生産性測定——川本[2004]モデルの紹介……………		362
3	TFP変動と生産要素稼働率——理論的考察……………		366
4	生産要素稼働率の可変性を考慮した生産性測定——再検証……………		371
5	部門間資源配分、生産性と需要シフト……………		380
6	結論……………		385
	参考文献……………		386

12	わが国の均衡実質金利	鎌田康一郎	387
1	はじめに		389
2	低域通過フィルター		390
3	Laubach-Williams モデルとその改良		396
4	NAILO と NAIRI		401
5	構造 VAR		406
6	DSGE モデル		411
7	均衡実質金利の不確実性		417
8	結論		425
	参考文献		426
13	日本の景気循環の構造変化	渡部敏明	429
1	はじめに		431
2	複数の構造変化点をもつマルコフ・スイッチングモデル		433
3	ベイズ推定法とモデル選択		437
4	構造変化点と景気転換点の推定結果		441
5	結論		447
	補論		448
	参考文献		455
	索引		457